

◆ 議長記者会見概要

日 時：令和2年6月18日（木）13：40～13：55

場 所：県政記者クラブ（県庁内）

出席者：粒谷友示議長、森山賀文副議長、奥山広報委員会座長



森山副議長

粒谷議長

奥山広報委員会座長

〈案件〉

1年間の振り返り

○粒谷議長

私は昨年5月、令和元年、そして第100代という節目のときに議長に就任させていただきました。また、全国都道府県議会議長会副会長という要職にも就き、上京する機会が非常に多かったので、森山副議長にかなりフォローさせていただきました。

この1年を振り返りますと、まず秋にイギリス・ロンドンに参りまして、大英博物館での「奈良－日本の信仰と美のはじまり」展において、知事と共

に奈良県のプレゼンテーションをしたことが挙げられます。これは非常に成果があったと思っております。

また、天皇陛下の御代替わりもございました。この関係で宮中に4回ご招待いただき、荘厳な式典に参加することができ、さらに11月に天皇皇后両陛下が神武天皇陵にご親謁になられたときには、知事と一緒に2日間行動を共にさせていただきました。特に最終日には、橿原神宮前駅の貴賓室で、両陛下がお帰りになる前に20分程度面談をさせていただきました。両陛下のご趣味や奈良県にご縁のあるお話を用意していたものの、なかなかお話をすることができませんでした。両陛下からご質問いただきまして、非常に和やかな時間が流れていきました。両陛下と親しくお話をさせていただいたことは、私の人生の中で最初で最後になると思いますので、思い入れが深いものでございました。両陛下は、電車に乗られる前にもわざわざお越しになり、愛子内親王殿下のことなど、非常に楽しくお話をさせていただきました。

年が明けてからですが、地震や台風などの災害のときに、我々議員もリアルタイムで理事者と情報を交換、共有しなければならなかったと思っておりました。EメールやLINEによる情報を共有する体制を構築できたところに、新型コロナウイルスの問題が発生しましたので、それを活用することができました。さらに、4月28日に奈良県議会新型コロナウイルス感染症対策会議を立ち上げ、これまでに7回の会議を開催し、知事とも議論しました。当初から私は、議会と知事・理事者とは、ポジティブな会議をすべきだと申し上げていましたけれども、今回も非常に建設的な会議になり、緊急事態への対応として、一つの礎ができたという思いです。

なお、4月中旬に、39市町村議会の議員と一緒に政策セミナーを開催し、約200名の方にご参加いただくこととなっていて、大変意義のあるものになると思っていたのですが、新型コロナウイルス感染症のため、残念ながら今回は開催できませんでした。次の議長には、必ずこのセミナーを開催していただいて、奈良県が一丸となってもらいたいと思っております。

前半は非常に忙しかったのですが、後半となる今年は行事等の公務が少なくなっていて残念でしたが、理事者とともに新型コロナウイルス対策をさせていただいたことが思い出です。

それから、議会改革は、1年では大きなことができなかったことが大変残念です。

皆様のご協力に感謝を申し上げたいと思います。

○森山副議長

先ほど議長からも話がございましたが、この1年は特に、御代替わりと重なり、議長がさらに多忙になる中で、少しでもそのサポートができればありがたいという気持ちで、突進した1年間でした。

当初は宮中の行事もございましたし、地元の行事もあり、公務が多忙でしたから、そういう意味では少しはサポートしてお役に立てたことはあったと思います。後半に入ると、やはり新型コロナウイルスの関係で、行事という行事がほとんど中止・延期になり、思っていた以上に行事等の公務は少なくなりました。

これから奈良県の経済をはじめとして、いろいろな再生を進めていかなければならない時期にバトンタッチをするというのは、少し残念な気もしますが、また一議員に戻って経済再生などに努めていきたいと考えているところです。この1年間、いろいろとマスコミの皆様にもご協力いただきましたことに、改めまして感謝申し上げます、私の挨拶といたします。

○奥山広報委員会座長

広報委員会座長の立場としては、県民から好感を持っていただけるような広報をするということを基本としており、広報委員会のメンバーの協力を得ながら、それができたと思っております。奈良県議会が開かれたものであることを住民にいかにか知ってもらうことができるかというのが一番の課題で、毎年子どもたちが議場見学に来てくれるのですが、時期的にそろそろ県議会に行こうかというときに、新型コロナウイルス感染症により、来ていただけなかったのが、残念に思っております。バトンタッチするに当たっては、もっと奈良県議会の良さや、議会がどういうことをしているのかということをしつかりと認識してもらえるように、引き継いでいきたいと思っております。

議会運営委員長を兼任していますが、良い勉強をさせていただきました。議員の皆さんの大きな力添えがあって、1年間無事に議会運営ができたと思っております。新型コロナウイルス感染症に関しても、先ほど議長がおっしゃったように、奈良県議会新型コロナウイルス感染症対策会議を立ち上げて、短期間で合計7回もの会議を開催しました。当初は、特別委員会の設置など、いろいろな意見もありましたが、医療現場等が大変なときに、特別委員会を開き、各所管の担当にまで来てもらうよりも、対策会議として県の方針等をしつかりと報告してもらって、我々の質問を受けてもらう方がいいだろうということで、議長の決断を経て、対策会議にさせていただきました。非常にいい決断だったと思っております。

これからも奈良県議会発展のためにしっかりと頑張りたいと思っております。マ

スコミの皆さんには、奈良県議会に叱咤激励していただくことをお願いしまして、私のご挨拶に代えさせていただきます。

<質 疑>

Q：県政の今後の課題について、一言ずつお願いします。

議長：当面はやはり、新型コロナウイルスの第2波への対策です。

経済も、立て直さないといけませんし、観光は1度落ち込んでしまっているので大変だと思います。県民の皆さんの声に真摯に向き合いながら、できることは何でもするという姿勢が必要です。我々も、大変困っておられる商工業の皆さん方や、観光、とりわけホテルや旅館組合の皆さんの声を反映して、何としても復活させたいと思っており、これが一番の柱です。

一方、これにより、奈良県の財政が非常に厳しくなる部分も出てきますので、これも心配しているところです。

副議長：やはり、喫緊の課題は経済の立て直しだと思います。そのために、今回の補正予算案にも上がっていますが、県民の方に県内の移動をしてもらい、景気回復を進めていきます。引き続き、国の施策の「Go To キャンペーン」もされますし、県外から奈良へ来ていただく方を再び増やしていく取組も進めていきます。そのことにつながる施策の一つが、今年の春先に行われた、東京国立博物館での特別展「出雲と大和」です。当初は注目されて、たくさんの方が訪れていましたけれど、途中で新型コロナウイルス感染防止のため会期末を前に閉幕しました。奈良の歴史の良さを、東京の上野で展示できたというのは非常に大きな意味があったと思いました。一過性に終わることなく、あのような展覧会を引き続き行って、奈良の良さを改めて知っていただいて、県外から奈良にたくさん観光で来ていただけるきっかけとして、これからも大いに発信していく必要があると感じたところです。

広報委員会座長：基本的には経済の立て直しをいかにするかということです。国の施策を待っている場合ではないということで、私は特に奈良県内の商工業の経営者とよくお会いしますので、話を聞くと、「奈良県は独自の支援策を立ち上げていて、非常にありがたい。県には非常に大きな負担をさせるけれども、回復したときには、その分を我々はきっちり返さなければいけない」とおっしゃってくれていて、荒井知事の経済政策を、すごく前向きに捉えている県民が多いという事実があります。

私のところにも5日ほど前に“アベノマスク”が届いて、今頃かと思いましたが、とにかく国がやることは非常に大きいけれども、住民に届くまで時

間がかかります。

新型コロナウイルスで亡くなられた方は日本国内で1,000人もいませんが、経済が困窮するとそれ以上の自殺者が出ることもあります。新型コロナウイルス対策も本当に大事ですが、経済対策もしておかなければいけないので、奈良県独自の「奈良モデル」となるような経済対策をしっかり頑張っ
てほしいと思います。